



担い手通信



JA bank Mie

Topic

今月の話題

小・中規模圃場お任せ

ドローン利用進む

費用・操縦の負担減

防除・診断

ドローン(小型無人飛行機)の飛行を定めた改正航空法が2015年12月に施行され、農林業で利用が急速に広がっています。農業では薬剤散布用に、動力噴霧器と産業用無人ヘリコプターの間を埋める新たな選択肢として小・中規模圃場(ほじょう)で使う生産者が増えています。高性能カメラによる生育診断などが進む他、資材の運搬など品目や目的に応じた活用法が見えてきました。

農水省によると16年度にドローンを使った防除面積



薬剤散布にドローンが活躍

は684・4畝で、水稲586・4畝、大豆97畝、その他露地野菜が1畝でした。無人ヘリの防除面積(105万畝)の0・1%にも満たない面積ですが、農水省は「17年度は未集計だが」水稲では、かなり増えている「(植物防疫課)と推測しています。さらに飛行に規制が少ない生育診断などでは、広範囲

で利用されているとみられます。

千葉県東金市で水稲28畝を作付けしている菅野さんは16年5月、防除用に薬剤5畧を積めるドローンを購入しました。面積が20畧を超えた時から、薬剤2畧が積める小型無人ヘリで防除をしていましたが、規模拡大を考え、ドローンに替えました。

16年3月に3日間の講習を受け、免許を取得。機体分を含めて、費用は約230万円でした。高額な投資ですが、「20〜30畧は、10000万円超の無人ヘリを使うほどの規模ではなく、ドローンがちょうどいい」と話します。菅野さんは、8月盆までにカ

ムシといもち病防除のため1、2回使います。圃場は、30畧以下の区画が主で、1回の薬剤補給で約60畧分の散布ができます。実際に計測したところ、20畧圃場で離陸して散布、着陸するまで4分弱でした。

数字でみえる 三重県の農と食

三重県内の小麦の作付面積

平成29年産の三重県の小麦の作付面積は、東海農政局「東海3県の麦類(平成29年産)の生産動向」によると、6430^{ヘクタール}で全国5位です。作付面積は増加傾向で10年前の平成19年と比較すると1200^{ヘクタール}増加しています。東海3県の平成29年産の作付面積を全国と比較すると、愛知県が5530^{ヘクタール}で同7位、岐阜県が3190^{ヘクタール}で同12位と三重県の作付面積が一番多くなっています。

6430^{ヘクタール}

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。



このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

情報 報通信技術（ICT）を活用し、檻や罠をパソコンやスマートフォンなどで遠隔監視・操作、情報共有できるシステム「クラウドまるみえホカクン」を三重県農業研究所（研究担当者・山端直人（現在・兵庫県立大学）が鳥羽商船高等専門学校、株式会社アイエスイーと共同で開発しました。

「クラウドまるみえホカクン」は、クラウドスペースに連動しており、侵入センサーに連動した接近情報のメール通知、檻や罠の映像の閲覧、遠隔でゲートを落させるなどの機能や、チャット機能を活用し、リアルタイムで利用者同士の情報交換も可能です。

Webで情報を共有 地域全体で害獣の捕獲へ

て群れ単位の頭数管理が重要で、調査に基づく捕獲計画の策定や実施可能な体制構築を前提とした遠隔監視・操作システムの導入が有効です。

クラウドまるみえホカクンの外観とシステムの概要



お問い合わせ先

三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎0598-42-6356
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 ☎0795-80-5500

(日本農業新聞より)

JAみえきた

ナバナ 6万5000ケース出荷目指す

JAみえきた長島営農センターは12月上旬、年明けの出荷最盛期を前に「三重なばな」の目ざろえ会を開いた。生産者や市場関係者、JA職員ら約100人が参加。出荷基準や今後の栽培、衛生管理などを確認した。9、10月の豪雨や日照不足の影響で例年より生育が遅れているが、品質は良好だ。主に札幌、新潟、関東市場へ出荷し、年間約6万5000ケース（1ケース4^キ）を目指す。桑名市長島地区は約30^畝でナバナを栽培。出荷は9月中旬から始まっている。

(2017/12/9 ワイド1東海静岡三重)

JA鈴鹿

いきいき農業大学 受講生が対面販売

JA鈴鹿は11月下旬、JAいきいき農業大学の受講生が栽培した野菜を対面販売する収穫祭を鈴鹿市のJAファーマーズマーケット果菜彩鈴鹿店で開いた。カリキュラムの一環。収穫や値決め、販売を通じて栽培技術だけでなく販売の実態を学ぶのが目的。受講生は、近隣のスーパーや直売所などの価格を参考に適正価格での販売に努めた。前日に収穫したダイコンやハクサイなどが並んだ。受講生は「お客と話をするのは楽しい。購入してもらえると励みになる」、来店客は「地元産で安心。お薦めの通り、鍋にして食べたい」と話した。

(2017/12/8 ワイド2東海)

JA津安芸

1000人の笑顔 パネルに

JA津安芸は合併30周年記念として、JAまつり来場者の笑顔の写真で「フォトモザイクアート」を作り、12月11日から本店ロビーに展示している。JAまつりに訪れた約1000人分の写真を使い、縦2^枚×横5^枚の特大パネルを作成。来店客らが立ち止まって眺めたり、自分の写真がどこにあるか探したりとにぎわっている。2018年3月30日まで展示する。

(2017/12/13 ワイド1東海)

農業を営む
すべてのの方に

今ならJAバンク利子補給制度により、お借入から当初3年間は最大年1%の利子補給が受けられます。

農業経営資金

すべての農業者の
実りある未来をサポートします。

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- その他農業経営に必要な資金

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を
応援します！

詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

平成29年12月現在



【金利情報】平成29年12月20日現在

農業経営資金

変動金利
年**1.00%**

固定金利
年**1.50~2.00%**

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金

年**1.5%**
(変動金利)